

平成16年（行ウ）第497号 公金支出差止（住民訴訟）請求事件

原告 深澤洋子外43名

被告 東京都知事外4名

### 文書送付囑託申立書

2007（平成19）年4月18日

東京地方裁判所民事第3部 御中

#### 原告ら訴訟代理人

弁護士 高 橋 利 明



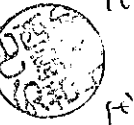
弁護士 大 川 隆 司



弁護士 羽 倉 佐 知 子



弁護士 土 橋 実



弁護士 只 野 靖



弁護士 谷 合 周 三



ほか28名

#### 原告ら訴訟復代理人

弁護士 西 島 和



原告らは、次のとおり文書送付嘱託を申し立てる。

第1 文書の表示

- 1 別紙1「参考 開発量の低下（実力評価）について」（乙120）  
2 ページ目に記載された利根川、荒川、霞ヶ浦の安全度と切り下げ率の計算結果を算出するにあたり用いられた基礎となる数値の根拠が示された文書、及び同計算結果の算出過程が記載された文書（以下「文書1」という）
  
- 2 別紙2「利根川上流管内浸水予定区域検討業務報告書（平成16年度）」（抄）の氾濫区域の計算に用いた、八斗島地点上流部の氾濫箇所・氾濫箇所別氾濫流量・氾濫区域・洪水調節施設の調節効果のデータ等、八斗島地点上流部の流出計算の基礎資料及び計算過程の記載された文書（以下「文書2」という）

第2 文書の所持者（文書1及び2について共通）

〒100-8918

東京都霞が関2-1-3

国土交通省

電話 03-5253-8111

（担当課）

〒330-9724

埼玉県さいたま市中央区新都心2番地1

さいたま新都心合同庁舎2号館

関東地方整備局河川部河川計画課流域治水係

電話 048-601-3151

### 第3 立証の趣旨

#### 1 文書1について

「近年の少雨傾向により河川流況が減少傾向にあることから、河川から取水できる水量は当初計画した水量に比べて減少している・・・(こと等を)考慮すると、霞ヶ浦導水及び霞ヶ浦開発を除く利根川水系からの取水可能量は20%減少、荒川水系からの取水可能量は22.5%減少となる」との被告らの主張に科学的根拠がなく、被告らが将来にわたって東京都の水需要をまかなうに足る水源を保有していること

#### 2 文書2について

昭和22年の実績降雨を与え、現況(平成16年当時)の断面、現況の洪水調節施設で流出計算を行った場合、上流部で3,500 m<sup>3</sup>/秒の氾濫が起きるとの計算結果を弾劾し、ひいては昭和22年洪水で22,000 m<sup>3</sup>/秒にはなりえないこと

以上

副本

参考 開発量の低下(実力評価)について

1. 概要

近年において、所定の安全度が得られるための確保量と計画時における確保量の割合を実力値とした。

2. 検討概要

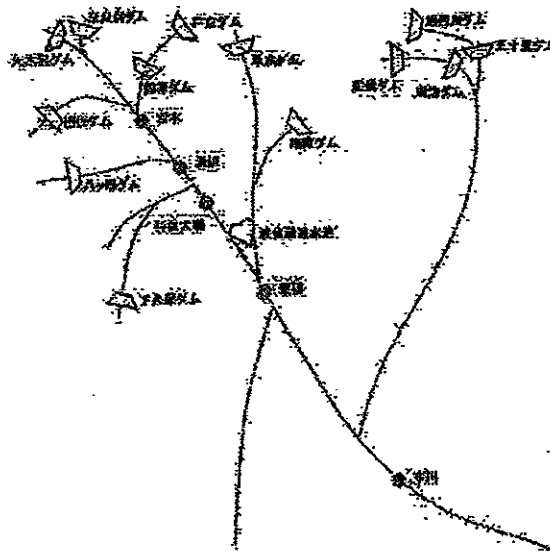
(1) 条件

・ 計算期間  
1978年(S53)～1997年(H9)の20ヶ年

・ 対象施設  
基本計画、実施方針の定まっている施設(戸倉ダムまで)

・ 計画確保量  
上記施設までの確保量

・ 対象確保地点  
岩本、渋川、利根大堰、栗橋、布川



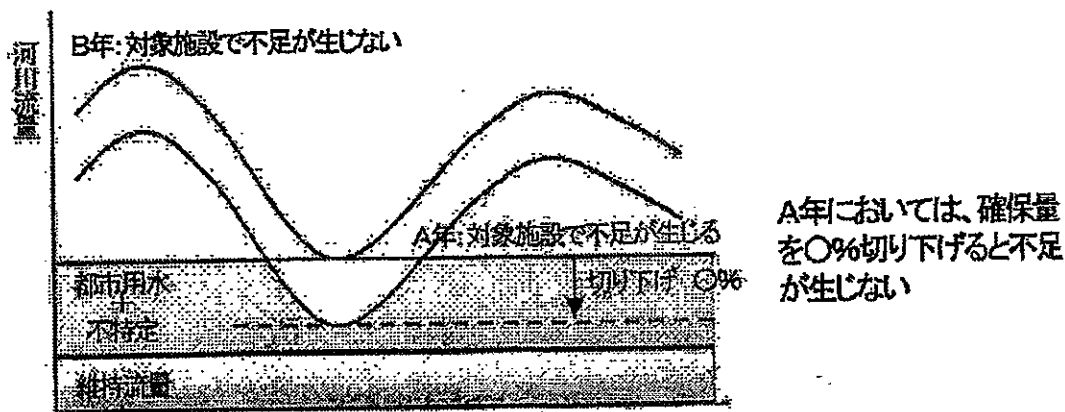
利根川水系岩本・栗橋中下流一帯(確保)の確保

河川	水取源 原簿 種別	施設別(千m <sup>3</sup> )				新年度確保量(m <sup>3</sup> /d)			合計
		総貯水 容量	有効貯水 容量	治水容量	利水容量	上水	下水	小計	
利根川 上流	水取源	52,139	35,880	24,200	31,039				
	水谷川	25,000	20,800	5,400	20,000				
	北条川	29,310	15,140	15,340	15,220				
	利根川	203,850	175,800	25,100	153,700	7.3		7.3	8.68
	利根川	88,000	85,000	15,000	85,000	2,648	6.68	9,356	1,003
	戸倉川	89,000	64,000	23,000	64,000	3,802		3,802	3,902
小計	497,100	386,820	102,840	365,969	14,242	6.68	18,957	9,259	
栗橋	栗橋川	187,300	89,000	85,000	85,000	21,548	0.58	22,128	23,128
	小計	187,300	89,000	85,000	85,000	21,548	0.58	22,128	23,128
利根川 中下流	利根川	140,000	126,000	35,000	120,000	14.2	1.8	16.0	16.0
	小計	140,000	126,000	35,000	120,000	14.2	1.8	16.0	16.0
栗橋	栗橋川	60,000	50,000	20,000	50,000	7.04	1.68	8.72	1,445
	栗川	51,000	30,000	5,000	45,000	9,202		9,202	3,202
	栗橋川	25,400	21,400	10,000	21,400	2.8		2.8	2.8
	小計	137,400	121,900	35,000	116,400	12,742	1.68	14,424	1,473
渋川	栗橋川	55,000	45,000	24,000	32,000				
	栗橋川	37,500	33,300	24,000	24,000				
	栗橋川	65,000	76,000	30,000	76,000	2.65	4.38	7.03	7,271
	栗橋川	30,000	26,000	20,000	26,000	3.59	3.26	6.85	7,338
小計	324,000	281,100	123,000	279,100	6.17	7.64	13.81	3,609	
栗橋	栗橋川	200	500		200	14.78	1.28	16.06	17.34
	栗橋川	200	500		200	14.78	1.28	16.06	17.34
	栗橋川	200	500		200	14.78	1.28	16.06	17.34
	小計	400	1,000		400	29.56	2.56	32.12	34.68
栗橋	栗橋川	1,200,000	817,000	351,000	373,000	4.50	13.28	17.78	19,856
	小計	1,200,000	817,000	351,000	373,000	4.50	13.28	17.78	19,856
合計		2,414,100	1,883,330	724,140	1,233,930	94,602	25,600	126,202	135,000

(注) 利水容量は非洪水期の容量

(2) 評価方法

- ・近年20ヶ年において、所定の安全度が得られるよう対象確保地点の確保量を切り下げ、対象施設で不足が生じないようにする。



安全度と切り下げ率

	近年安全度 1/5	近年安全度 1/10
利根川	17%	20%
荒川	6.4%	22.5%
霞ヶ浦	0%	0%

# 1. 氾濫外力等の設定

利根川下流等洪水調節施設

229号-1

対象洪水：昭和22年9月洪水  
(降雨量：実績降雨 八斗島上流3日雨量 総雨量318mm)

利根川対象流量 (昭和22年9月) <八斗島>

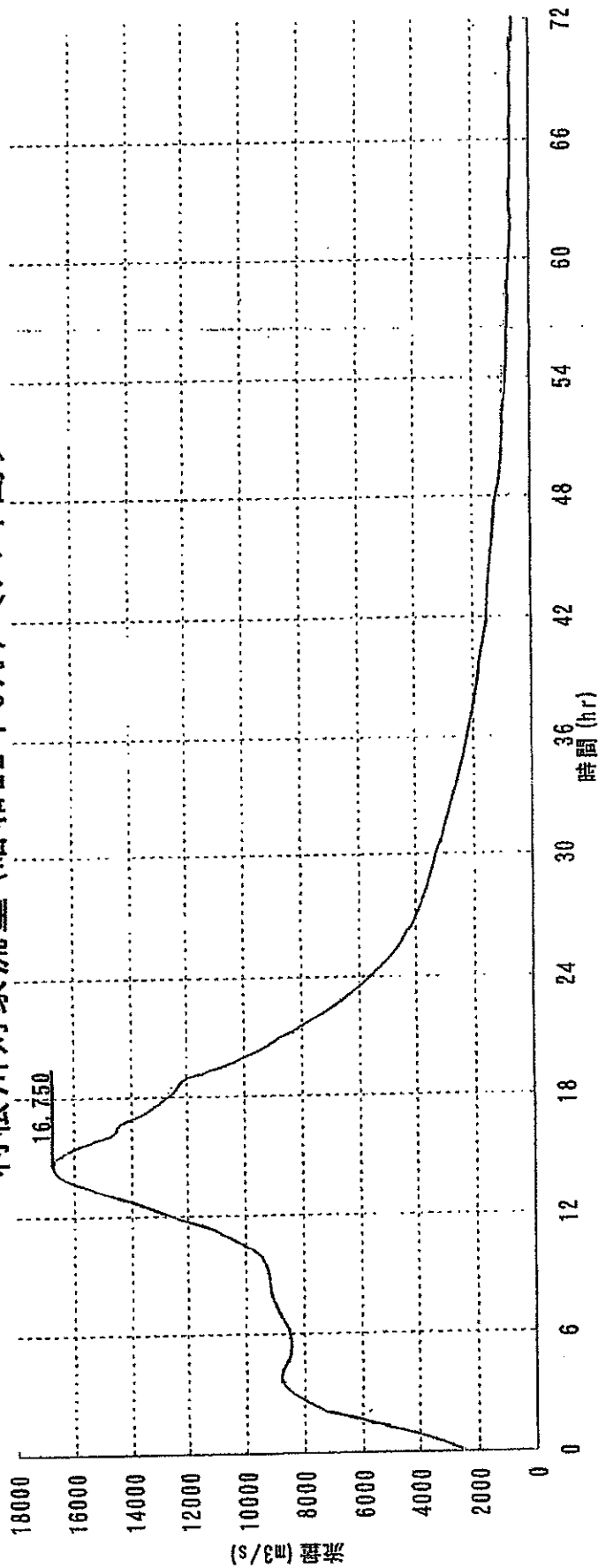


図-1 対象洪水 ハイドログラフ

補足資料

S 2 2 年の実績降雨を与え、現況の断面、現況の洪水調節施設で流出計算を行った場合、上流部で氾濫したうえで八斗島のピーク流量は 16,750m<sup>3</sup>/s となる。(浸水想定の外力)